

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年6月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600323
法人名	有限会社 ナチュラル・ライフ
事業所名	グループホーム 桜寿
所在地 (電話番号)	磐田市池田391-1 (電 話) 0538-39-7530
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成21年3月27日

【情報提供票より】(21年 3月 13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22人	常勤 8 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 8.2人	

(2)建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	鉄筋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)
食材料費	朝食 300 円	昼食 400 円	
	夕食 600 円	おやつ 200 円	
	または1日当たり 1,500 円		

(4)利用者の概要(3月 13日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	7 名	要介護2 1 名	
要介護3	2 名	要介護4 7 名	
要介護5	1 名	要支援2 0 名	
年齢	平均 87 歳	最低 76 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	豊田えいせい病院、飯島歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天竜川に近い住宅街の一角にある平屋建てのホームである。利用者一人ひとりの尊厳を大切にするという、法人代表の思いが詰まった介護が行われていて、利用者それぞれの能力に応じた役割を持ち、生き生きと暮らしている。食事は、専任の職員によって利用者の好みを取り入れ毎日手作りで提供され、利用者の楽しみのひとつになっている。運営推進会議も回数を重ね、ホームの現状を報告し理解を求め、提供された地域情報を利用者の生活に活かしている。今後更に地域との連携を図り、災害時の支援やホーム行事への参加を依頼するなど、双方向での交流が深まるように働きかけられたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果は、全職員が日々のサービスに活かすように心がけ、来訪者へも周知している。ホーム便りの発行は引き続き検討している。災害時の対応についても地域との連携を図り、取り組まれたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を十分理解し、積極的に取り組んでいる。正規職員がそれぞれ記入し、管理者がまとめた。職員は日々のサービスを振り返る良い機会と捉えている。今後は、課題に対し職員で話し合い、共通認識を持って、具体的な改善策に取り組まれたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成18年度から開始し、名称を親しみやすい「地域連絡会」とし、不定期ながらこれまでに開催6回を数える。自治会長、家族代表、市職員、法人担当者、職員をメンバーとし、ホームの状況報告を行い理解を求めている。質疑応答では活発に意見を出し合い、いただいた地域情報(祭典・運動会・文化祭などの行事情報)をホームの運営や、利用者の活動に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時、気軽に話ができるよう心がけ、意見を引き出したり、電話連絡も随時行っている。苦情相談窓口担当者を配置し、対応に係る仕組みができています。運営推進会議には、家族代表にも交替で参加していただき、意見を出してもらえよう働きかけている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会行事の運動会や祭典、公民館の生花講座に参加するなど、地域住民との交流を図っている。運営推進会議には自治会長が参加していて、地域の情報が提供されている。今後は、災害時の相互協力体制の構築や、ホーム行事への地域住民の参加などにも取り組まれたい。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、法人グループ共通の「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を理念として掲げている。利用者の思い、家族の希望を取り入れ、心身ともに安心できる環境作りを心がけている。	○	地域密着型サービス事業所として、事業所独自の理念を追加していくことも検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に掲示し、常に念頭に置き支援に当たっている。日々の課題も、理念に照らし合わせ、職員同士確認しながら実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、運動会などの行事に参加したり、公民館の生花講座に参加している利用者もいる。近隣住民と挨拶を交わすなど、日常的な関わりを大切にしている。また、地域住民を対象とした介護教室の実施を検討している。		ホームへの理解を深めるため、地域との協力体制の構築に向け、介護教室の実施は有効であり、期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	正規職員全員で自己評価票に記入し、管理者・ケアリーダーで纏め上げた。毎回、評価結果は全職員に周知し、日々のケアに活かすように取り組んでいる。公表された結果は玄関に設置し、来訪者が閲覧できるようにしている。	○	明確になった課題に対し、職員で意見を出し合い、改善計画の作成に取り組まれたたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や家族代表、市職員、職員をメンバーとし、自己紹介やホームの現状報告、意見交換などを行っている。地域にホームを理解してもらう良い機会であり、また、地域の情報を収集できる場であると考え、ホームの運営やサービス向上に活かしている。	○	現在不定期となっている会議を定期的で開催し、議題によって参加メンバーを追加するなど更に充実した会議となるよう取り組まれたたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市担当者を訪問して運営状況を報告し、相談も行っている。事業所連絡会や、ケアマネ連絡会等に参加し、連絡を取ると共に、情報交換を行い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時に利用者の状態を伝え、小遣い帳もレシートと共に確認してもらっている。職員の異動についても、家族訪問時にリーダーが紹介しながら挨拶するようにしている。	○	訪問の少ない方への報告方法を検討し、以前より懸案となっているホーム便りの発行を実現されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時には、気軽に話せる雰囲気作りを心がけ、管理者や職員から声を掛けるようにしている。また、運営推進会議に家族代表が交替で出席し、意見を出せる場作りを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動については、2ユニットの利用者を全職員で見える体制になっており、全員で関わっているの で利用者に対するダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には、法人グループ内で新人研修を行っているが、その後は、人員体制の問題もあり、外部研修への参加機会は少ない。	○	体制的な問題もあるが、職員の経験や習熟度に合わせた研修を受講できるよう、年間を通した個別の研修計画作成に取り組まれたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種連絡会や研修に参加し交流を持ち、情報交換してサービスの質の向上につなげている。	○	地域同業者と交流し、職員が相互訪問できるような機会を作ることを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、自宅訪問により本人・家族から意向を十分に聞き取り、主治医、看護師等による入居判定会議を行い、ホーム利用の是非を判定している。また、ホームの雰囲気を知っていただくために、見学や体験利用を行い、徐々に慣れてきた上で利用を開始するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りを一緒にしながら、包丁の使い方、魚の食べ方を教えてもらったり、共に暮らし、時間を共有する中で、一方的な支援にならないよう互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前の聞き取り調査や、日々の会話や行動から、利用者一人ひとりの情報をケアカンファレンス時に収集し、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日ケアカンファレンスを行い、職員間で利用者の変化などについて意見を出し合い、利用者の日々の様子や家族からの要望を検討し、介護計画を作成している。計画は、家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活見直しシートに職員の意見を書き込み、基本的には3ヶ月毎見直しを行っている。状態に変化があった場合は、1ヶ月あるいは1週間単位の介護計画を作成し、それぞれに合ったきめ細かな対応を行っている。現状に即した新たな計画、その結果どうなったかが明確に記載されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への付き添いは、家族が行けない場合、職員が同行したり、自宅への送迎など利用者や家族の要望に応じて、柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。協力医とは、月1回の往診と緊急時対応が可能な体制ができており、利用者・家族の安心に繋げている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を示し、利用開始時、利用者・家族に説明している。また、看取りを実施する場合には、利用者・家族、主治医、看護師、スタッフと十分に話し合い、情報を共有しながら介護することを方針としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格や、職員との信頼関係により、その方に合った声かけや関わり方をしている。また、家族の訪問の際は、玄関に利用者毎の面会簿を備え、他の方の面会状況は安易に見られないようにするなど、記録の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「日々の生活の上で、一寸お手伝い」の気持ちを大事にし、ゆったりとした時間の中で利用者一人ひとりのペースに合った支援が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は準備から一緒に行い、利用者・職員全員が同じ食卓を囲み、さりげない支援が行われている。食後は、職員と一緒に片付けや食器洗いを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活歴を参考にしたり、利用者の意向を確認しながら、可能な限り好きな時間帯に入浴できるよう努めている。入浴拒否の利用者に対しても、タイミングや働きかけを工夫して入浴を勧め、清潔を保つよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔の歌やビデオ、裁縫、畑の収穫等の楽しみごとや、利用者の生活歴、日常生活における本人の力を活かし、調理や、掃除、洗濯ものたたみ等の役割に繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩に加え、食材料の買い物に出かけたり、その日の希望に沿った外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの利用者への弊害を全職員が理解し、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行っている。避難訓練を行っているが、職員主体のシュミレーション的訓練になっている。地域を巻き込んだ訓練を実施するため、地域防災担当者と話し合い協力要請しているが、まだ実施に至っていない。地域の防災訓練への参加を検討している。	○	職員だけの対応でどのような問題が生ずるのか、様々な場面を想定して職員で話し合い、運営推進会議でテーマとして投げかけ、意見をいただいたり、協力体制の構築に繋がりたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取が気がかりな利用者は、食事・水分摂取量を把握・記録し、職員間で共有している。不十分であれば補食などで補えるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節感を感じられるよう配慮している。居間や廊下にはソファを配置し、利用者がそれぞれ好みの居場所を確保し、ゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がそれぞれ自宅で使い慣れたものを持ち込んでいる。入居後も、家族と話し合い、利用者が安心して過ごせる居室作りを支援している。		